

## 学校施設の更なる活用に向けた方向性（案）

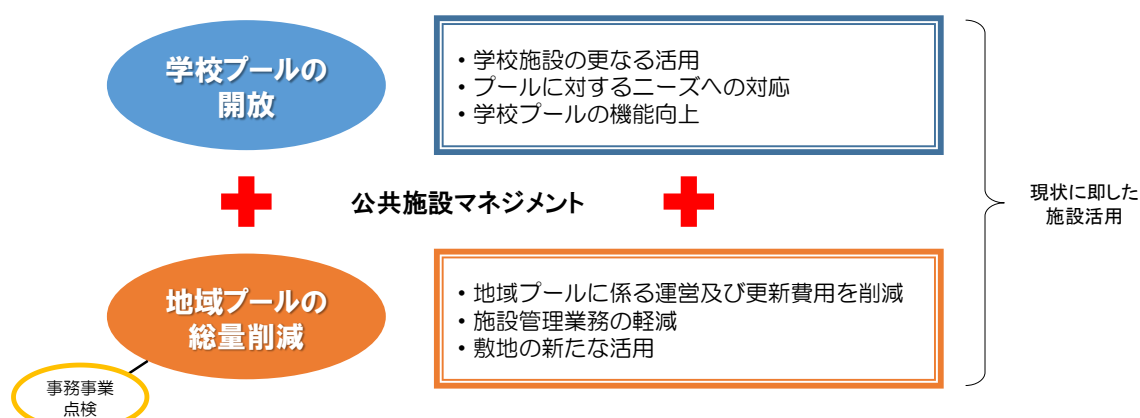
### 1 学校開放

#### (1) 基本的な考え方

短期的には、児童生徒数の大幅な減少は見込まれないことから、学校開放は限定的な範囲にとどまらざるを得ないと考えられます。ただし、夏季休業期間中の学校プールの開放については、早急に取り組むべき地域プールの見直しと連動し、条件を整えた上で実施すべきものと考えられます。このことにより、プールに対するニーズへの対応や、学校プールの機能向上を図ることも期待されます。

一方で、長期的には、人口や社会情勢の変化等に伴い、地域における学校の位置付けが変化していくことも予想されるため、それに応じた新たな学校開放のあり方を、地域住民とともに作りあげていくという姿勢が求められます。

#### 【イメージ図】



#### (2) 学校プールを開放する学校数や運営方法

学校プールの開放に当たっては、一律に開放するというのではなく、施設の老朽化の状況や利用者の動線、見直し後の公共プールの配置状況などを踏まえ、いくつかの学校を選定して実施することが重要です。また、学校プールの開放時の運営方法は、利用者の安全性の確保を基本とした上で、教職員の負担軽減や柔軟な施設運営などの観点から、民間事業者への委託による運営が最適であると考えられます。

なお、むやみに開放する施設数を増やすことは、開放にかかる運営費用の増加を招きかねないことから、コストとサービスのバランスを考慮した検討が必要となります。また、具体的に施設を選定する際には、市民や教育委員会だけでなく、現場を熟知する学校の教職員の意見も踏まえながら、決定していく必要があります。

### (3) 総合的な視点からのプール機能の見直し

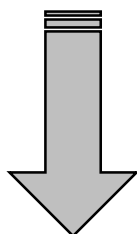
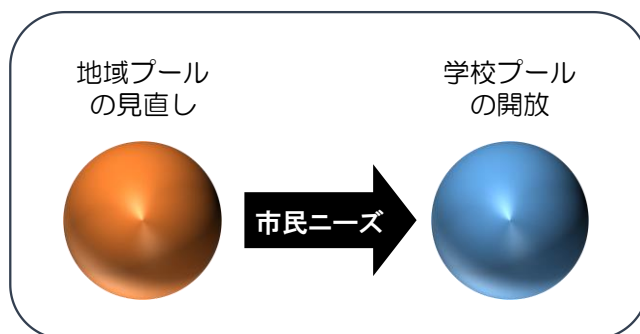
利用者数からも明らかなように、地域プールに限らず、プール機能に対するニーズは施設の設置時に比べ、大きく変化してきています。また、市民や児童生徒を対象としたアンケートの結果からは、総合プールや地域プールだけでなく、民間プール利用者数も一定数存在することが明らかになっています。

これらのことから、地域プールの見直しを進める際には、学校プールの開放と連動して取り組むだけでなく、市全体のプール機能、また民間プールの状況も踏まえた上で、総合的な視点を持って取り組む必要があります。

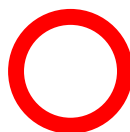
#### 【イメージ図】



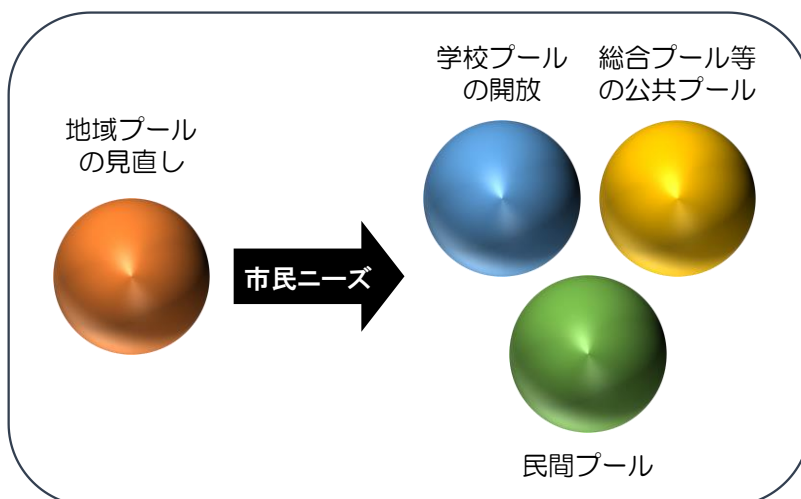
#### 小さな枠組み



- ・利用状況の変化
- ・市民及び児童生徒アンケートの結果
- ・公と民の役割分担



#### 大きな枠組み



## 2 学校施設の複合化

### (1) 基本的な考え方

学校施設の複合化については、公共施設マネジメントを進めていく上で、非常に重要な取組であると考えられます。

一般的に、学校施設の複合化による効果は、施設の「量」と「質」、2つの側面が考えられます。量の面では、余裕スペース（教室）や敷地を最大限活用し、他の機能との複合施設として整備することにより、市全体の施設の総量を圧縮する効果が考えられます。また、質の面では、教育機能と他の機能を同一施設内に設置することにより、学校施設の高機能化・多機能化が図られたり、児童生徒と施設利用者の新たな交流が生まれたりなど、様々な可能性が考えられます。

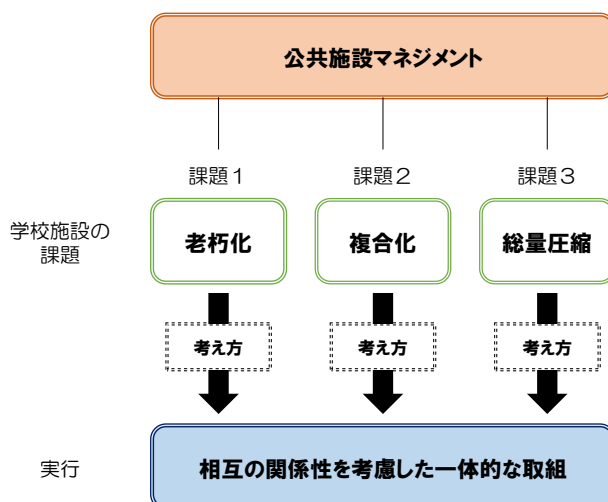
学校施設の複合化は、あくまでも効果を生み出すための手段であり、いかに効果を生み出していくかということが重要となります。府中市の特徴や学校施設の課題などを踏まえた上で、市と教育委員会、そして市民が一体となって検討を行い、早急に考え方をまとめていく必要があります。

### (2) 各課題に対する一体的な取組

府中市における学校施設の検討は、喫緊の課題である老朽化への対策が中心となっており、複合化については課題と認識しつつも、具体的な検討には至っていません。また、短期的には児童生徒数が横ばいであることから、市全体の施設の40%を占める学校施設の総量圧縮についても、検討はこれからという状況になっています。

このままでは、学校施設の老朽化に対応することだけを考えた建替えや改修が行われ、その後、複合化に伴う改修や総量圧縮に取り組むという事態になりかねなく、過剰な投資や非効率的な施設整備を招くおそれがあります。そうならないためにも、各課題相互の関係性を意識し、一体的に取り組むことが求められます。

#### 【イメージ図】



なお、複合化を検討していく際に整理すべき項目としては、次の3つ項目が挙げられます。

① 児童生徒の安全性の確保

単独の学校施設であれば児童生徒や学校関係者だけであった利用者が、複合化により、不特定多数の利用者となることも考えられます。児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、ハードとソフト両面からの対策を整理する必要があります。

② 複合化する機能の選定

学校施設と複合化する機能としては、様々なものが考えられますが、府中市における他の施設の老朽化の状況や市民ニーズを踏まえ、検討していかなければなりません。また、学校施設ごとに周辺環境が異なることから、各地域に応じた機能を整備するということも考えられます。

③ 学校教育への支障の回避

学校施設との複合化により、児童生徒と施設利用者の動線の交錯や、活動によって生じる音の授業への干渉など、学校教育に支障が及ぶことは避けなければなりません。

複合化の際には、施設の配置や防音性の確保などについて考慮するとともに、複合化する施設の利用方法や利用時間等について相互に情報共有を図り、学校教育に支障を与えないルール作りといったことも合わせて進めていく必要があります。